

不登校児童生徒の現状

不登校児童生徒数の推移（県内国公私立学校分）

年度	小学校	中学校	高等学校	合計
令和元年度	425人	846人	480人	1,751人
令和2年度	556人	899人	410人	1,865人
令和3年度	725人	1,112人	419人	2,256人
令和4年度	856人	1,336人	483人	2,675人
令和5年度	1,110人	1,531人	614人	3,255人
令和6年度	1,106人	1,518人	558人	3,182人



1

学校内の相談支援体制の充実

- ・スクールカウンセラーを全小中義務教育学校、県立拠点校に配置
- ・スクールソーシャルワーカーを全中学校区、県立拠点校に配置
- ・不登校やいじめ、家庭環境など複雑な課題に対し、心理・福祉の専門家と連携して支援



2

校内教育支援センターの整備

- ・教室に入りづらい児童生徒が、学校内で安心して学習・相談できる居場所として設置
- ・不登校の未然防止や、学校復帰に向けた段階的な支援を促進
- ・新たに設置する市町村に対し、支援員配置や施設整備に必要な経費を補助



3

フリースクール等の利用支援

- ・学校に行きづらい子どもの学校外の居場所の選択肢を増やすため、フリースクール等を利用する家庭を支援
- ・在籍校の校長が指導要録上「出席扱い」としていることなどを要件に、施設利用料等の一部を補助
- ・学校、家庭、施設が相互に連携し、子どもの社会的自立を促進



4

学校外の学びの場との連携強化

- ・市町のエデュケーションセンター、フリースクール等民間施設、学校との連携を推進
- ・「不登校児童生徒支援の手引き」を作成し、不登校への正しい理解と適切な支援を周知
- ・学校と民間施設との双方向の情報交換を進める方針



5

SOSの出し方に関する教育プログラム

- ・児童生徒が困難を抱えた際に、身近な信頼できる大人に助けを求められる力を育てる取組み
- ・教員とスクールカウンセラーがチーム・ティーチング（TT）で授業を行うことを特色とする
- ・児童生徒が安心して発言できる環境づくりを進め、不登校や孤立、いじめのリスク低減につなげる

